

(国) 筑波大学

情報学群

知識情報・図書館学類

キャリア教養学科 (安積黎明高校出身)

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

4年制大学(福島大)が不合格だったため、編入を目指して桜の聖母短期大学に入学しました。心理学を学び臨床心理士になることを目指していましたが、短大で様々な学問領域に触れ、心理学以外の学問にも興味を持ちました。その中でも特に、司書課程の科目で学んだ「図書館情報学」がとても魅力的に感じ、専門的に学べる大学への編入を考えるようになりました。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期に先輩方の合格体験を伺う機会がありました。編入学に合格された先輩方の勉強方法や、実際の試験の様子を話していただき、とても参考になりました。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

まだ受験大学が決まっていなかった時は、小論文対策もしていたので1年生の前期です。1年の終わり頃～2年春にかけて出願先を決め、1年の冬頃から志願理由書の書き方、大学の情報の効率的な調べ方等を何人かの先生に教えていただきました。2年前期は「社会人基礎力」の時間に小論文・英語・面接を練習しました。

Q4.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

私が受験した大学の試験はプレゼンテーション・口述方式だったので、自分の伝えたいことを明確に言葉にできるようにすることと、自分の将来像を明確にするよう努めていました。本学には「図書館情報学」専門の木川田先生がいらっしゃるので、多くのアドバイスをいただきながら試験2ヶ月前位から志願理由書・学習計画書の作成を始めました。2週間前からは週に2回ずつ毎回違う先生に面接練習をお願いしました。

Q5.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

学びは主体的に得るもの、と知ったことです。高校までと違い、自分から調べたり学んでいかなければ大学に来た意味がなくなってしまうことに気付きました。そこから受けられる授業はできる限り受けるようにしたり、更にその授業から興味が広がったりして、さまざまな学問を学ぶきっかけになりました。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

試験前の面接練習での「自信を持って」というアドバイスです。面接に対して不安なことや、聞かれても答えられないだろうと追い込まれていたところもありましたが、必要以上に小さくなることなく、やったことだけはまず忠実に出せるようにしようと思えるようになりました。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・

④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

- ① 短大受験時は「必ずここから編入する」という気持ちでした。
- ② 短大入学時は、高校とのギャップに戸惑いながらも、少しずつ見えてきた編入の全体像に緊張と期待、不安の入り混じった思いでした。
- ③ 編入試験前は、とにかく冷静でいるよう努めました。私は他に大学を受ける予定はなかったので、落ちたらどうしようか、お世話になった先生方にも申し訳ないという気持ちがありました。先生方に割いていただいた時間に報いるためにも全力で行こうと考えていました。
- ④ とにかく安心しました。まだまだ頑張らなくてはと気を引き締めました。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

私は短大で初めて、学びは主体的に得るものだと知りました。ここは多くの学びと出会えるところですが、それを深めるのはあくまで皆さんです。ぜひ桜の聖母で学ぶ楽しさを感じていただければと思います。編入希望のみなさん、先生方にアドバイスをいただきつつ自分の進路をしっかりと見極め実現してください。応援しています。